



市町村合併と将来構想のかかわり

押しつけられるのではなく、住民自らが考えたまちづくりを実現したいのではないのでしょうか。

●まちの将来は住民自らが作っていききたいのではないのでしょうか

全国的に展開している市町村合併は、多くの地域で議論がされているにもかかわらず、ほとんどが国からの施策的な誘導によるものであるため、＜合併が本当に地域住民の願いなのか、ただの国の言いなりなのではないか＞という疑問があると同時に、＜本当に住民の動機となっているかわからない＞という課題が根底にあるのではないかと考えられます。

本当は住民一人ひとりが自らの意思で、自分たちが住むまちの将来は人まかせにせず、自分たちでつくっていききたいのではないのでしょうか。

●これからのまちづくりには住民が納得できる動機が必要ではないのでしょうか

現在の財政難や高齢化の進展による今後の行政サービスのあり方など、様々な不安要素や課題を解決していくために合併がひとつの方法であることは、すでにご理解いただいている方も多いと思います。しかしそれでも納得できない方もいると思います。それは地域の方々にとっての積極的な意味での合併への動機（それは希望、夢といったようなものかもしれません）がないからであると考えられます。

これからの社会では、従来の「陳情型」から「提案型」、つまり「お願い」ではなく「自らの行動でその必要性を構築する」ことによりまちづくりが成立すると考えられます。

その意味からも、人々の合併への確かな動機や、将来像への思いが大切と言えます。

●合併を50年に1度の地域づくりのチャンスととらえた地域の将来像を考える必要があるのではないのでしょうか

市町村合併を地域の人々の動機（希望や期待）とするためには、人々のまちの未来に向けた思いや考えが込められた将来構想を、地域で考えていくことが必要です。つまり、市町村合併を国から押しつけられるものでなく、地域のチャンスとしてとらえ、将来にわたって自ら積極的に行動を起こしていけるような将来構想が必要なのではないのでしょうか。



多くの人々の思いを活かした将来構想としていきます

合併という手段を使ったとき、どのような新ながおかの将来都市像が見えてくるのか、またそれに対して私たちはどう行動していく必要があるかをテーマとし、様々な地域の方々の協力を得ながら調査や検討を行ない、新ながおかの将来構想として策定していくことが重要であると考えました。